

焼岳&乗鞍岳山行報告

【山行日】2021年 7月 24~25日(土日)

【集 合】岩舟支所P AM 3:00

【費 用】マイカー1台 : 20,600円

【メンバー】CL:鈴木 SL吉田

廣瀬、福島、藤原、

24日 晴れ 新中の湯コース登山口よりピストンで焼岳北峰に登り、下山後乗鞍高原青葉荘へ宿泊

岩舟支所P3:30=登山口 P6:50/7:10~広場

8:35/8:45~焼岳北峰 10:05/10:30~2250m 地点

11:00/11:30~広場 12:00~登山口 P13:00/13:10

=観光センター-13:40/14:10=青葉荘 14:20



今週は2泊3日で剣岳に登る予定だったが、参加者が少なく中止となった。1泊で焼岳と乗鞍岳を計画してほしいというリクエストがあり、今回の焼岳&乗鞍岳を計画した。今回もマイカー登山に最適な、新中の湯コースをピストンで登ることにした。連休で駐車場が心配なので岩舟支所を3時に出発し、北関東道から上信越道、長野道を走り松本ICで降りる。国道158号線を進み、途中の「グレンパークさわんど」でトイレを済ませ登山口駐車場に着くが、すでに満車で500m位先の路肩に駐車する。出発の準備が済んだら登山口まで歩き、ストレッチを済ませてから出発する。登山口から樹林帯の道を登り、アップダウンを繰り返しながら高度を上げて行く。長い樹林帯の道を登って行くと傾斜が緩くなり、視界が開けて小さな広場に出る。ここからは、これから目指す焼岳の岩峰が望め、小休止して果物や菓子を食べてエネルギーを補給する。ここからはヘルメットを着け、灌木の道を抜けると展望が開け、幅広い谷の笹原の中を登るようになる。急登が続くF島さんから休憩の要望があり、



平らな場所を探して小休止する。白い噴煙が上がる北峰を見ながら休憩し、「これからあの向こう側まで登るんだよ」と教える。さらに急登を頑張ると南峰と北峰の鞍部に着き、左下にエメラルドグリーンの火口湖「正賀池」が望める。「ウワ~凄い景色だね」と声が上がると、これから登る登山道には火山ならではの迫力ある景色が広がっている。

休憩後噴煙が上がる溶岩ドームをトラバースして登り、ドームの裏側の鞍部に出る。ここから山頂へ最後の急登になるが、ツアーのパーティが降りて来て登れない。リーダーの方に途中で分けて待ってもらい、最後の急登を登りきり山頂に着く。山頂は広く360度のパノラマで、大勢の登山者が展望を楽しんでいた。我々も山頂標識の前で記念写真を撮り、展望の良い場所で大休止する。晴天だが雲が多く、穂高連峰や笠ヶ岳山頂は雲に隠れていたが、上高地や霞沢岳は良く見えていた。ご褒美のナシをいただき、眺望を楽しんだら下山する。下山は往路を戻り南峰との鞍部まで下り休憩する。正賀池や北峰の写真をもう一度撮り、登山口に向かって下って行く。



青空の下、笹原の道は爽快で、谷を吹き上がる風が心地よい。広場まで下って昼食の予定だったが、



この景色を見ながら食べたいというので、登山道脇の平らな場所を探しランチタイムとする。お湯を沸かし、各自持参のカップ麺やスープを作り、おにぎりやパンをいただいた。景色を楽しみながらのランチは格別に美味しく、提案したF原さんにご満悦。ここからはヘルメットを脱いで下山し、広場で小休止して一気に登山口まで下って行く。無事下山し、我輩が車を登山口まで移動し、靴を履き替えたなら今宵の宿「青葉荘」に向かう。途中、グレンパークさわんどに寄り、トイレを済ませて名物のスイカをいただく。冷たくて甘いスイカはとても美味しく、乾いた喉を潤し皆さん笑顔で食べていた。時間が早いので

で乗鞍高原観光センターまで行き、明日の5人乗りのタクシーを予約する。前回お願いした北野さんは事故を起こして車を修理中で、仲間の川畑さんの車が有ったので朝7時30分に予約できた。車の予約が出来たので安心し、レストハウスでのんびり過ごすことにした。アイスコーヒや100%のリンゴジュース、梅ジュース等、各自好みの飲み物をオーダーしテラス席でいただいた。2時を過ぎたので少し早いけど宿に向かう。青葉荘に着き受付をお願いするが、3時からチェックインなので10分くらい待たされたが、チェックインを済ませ部屋に案内される。3時から温泉に入るが、この宿は温泉が素晴らしい。乳白色の温泉は肌に優しく、疲れも癒してくれる。女性達は家族風呂を予約し、二人貸し切りで温泉を楽しみ満足そう。温泉から上がると直ぐに反省会が始まり、女性達が来る前にビールがどんどん空いてゆく。ビールの後はワインに変わり、女性達も加わり反省会が盛り上がる。6時30分から夕食になり、合鴨鍋やイワナの塩焼き、馬刺し、天ぷら等々を肴にビールが進む。少々飲み過ぎたが部屋に戻り、そのまま布団にもぐりこんだ。Y田さんは飲み過ぎらしく、夜中にいきなり我輩の布団の上に倒れ込んできた。その後立ち上がるが、何回も倒れていたがなんとかトイレに行けたようだ。明日大丈夫だろうかと心配しながらも、そのまま眠りに就いてしまった。



25日 曇り後晴 観光センターでタクシーに乗り換えて畳平に行き、肩の小屋から剣ヶ峰をピストンで登り、復路は富士見岳から大黒岳を登って畳平へ下山する。



青葉荘 7:20=観光センター 7:30=畳平
810/8:20~肩の小屋 8:50/9:00~剣ヶ峰
9:50/10:10~肩の小屋 10:30/10:40~富士見岳
11:00~大黒岳 11:20/11:50~畳平 12:10/12:30
=観光センター 13:05/13:10=岩舟支所 P17:25

昨夜の天気予報では曇りの予報だったが、朝起きて外を見ると厚い雲に覆われていた。雨は降らない予報なので、何とか登れるだろうと思いつつ出発の準備を行う。朝食の時間を早めてもらい、6時30分に1階の食堂に行き朝食をいただく。青葉荘の朝食もとても美味しく、焼き

立ての鮭や卵焼き、煮物やおひたし等美味しくいただいた。

皆さん美味しいと完食し、二日酔いにはなっていないので安心した。宿の御主人にお礼を言い、予定通り観光センターへ向かう。観光センターの駐車場は車が多く、ようやく空スペースを見つけて駐車できた。



タクシーは我々を待っていて、直ぐにザックをトラックに積み出発する。運転手さんとお話ししながら40分のドライブで標高2700mの畳平に到着し、トイレの前で降りてもらおう。トイレを済ませストレッチを行ったら出発し、森林管理署詰所脇の階段を降りお花畑入口に着く。お花畑には寄らず直進し、道路が上がって肩の小屋に向かう。道路に出ると、大勢の登山者が山頂目指して歩いていた。右下にブルーの不消ヶ池見え、日が差してきて鮮やかなブルーに輝いていた。さらに進むと今度は左側に雪渓が見え、多くのスキーヤーが夏スキーを楽しんでいる。今までガスが掛か

っていたが、雪渓にも日が差し始め白く輝いている。我々が行く先に陽が差してきて、今日はお天道様が我々に味方してくれると思った。肩の小屋に着き小休止したが、剣ヶ峰は雲の中で見えなかった。

小屋を後にして本格的な登山道となり、大勢の登山者が山頂目指して登って行く。我々も後を追って登って行き、朝日岳の中腹をジグザグに登って行く。登るにつれ登山者が増え、下山者も多くなり混雑してきた。時折ガスが晴れて、前方に剣ヶ峰の姿が見えるようになり、天は我々に味方していると思った。岩がゴロゴロした登山道を登ると稜線に出て、視界が開けて右下に権現池が美しい。蚕玉岳を越えると分岐になり、登りは左に進み頂上小屋を経由して乗鞍岳の最高峰剣ヶ峰山頂に着く。山頂は大勢の登山者で賑わっており、山頂標識では写真を撮るのに順番待ち。しばらく待って記念写真を撮り、山頂の一角で休憩しご褒美のナシをいただく。山頂は晴れていて360度の眺望が楽しめ、遠望は効かないが大日岳や高天ヶ原、摩利支天岳等が指呼の間に見え絶景を楽しめた。眺望を楽しんだら下山し、往路を戻って肩の小屋に向かう。蚕玉岳の先からほんの少し登って朝日岳に寄り、山頂からの展望を楽しむ。



朝日岳からの剣ヶ峰は素晴らしく、摩利支天岳から五ノ池まで見渡せ、雄大な乗鞍岳を堪能できた。肩の小屋まで下って昼食の予定だったが、予定より早く着いたのでトイレを済ませたら富士見岳に向かう。往路の道路を数分戻ると右側に登山口標識があり、ここから山頂まで10分と書いてある。上を見上げ「エ～10じゃ無理だよ！！」と声上がるが、登ってみると10分も掛からず山頂に着く。登山道の両側にコマクサが群生し、ピンクの可憐な花に大感激する。まだ株は小さかったが花は丁度見頃で、乗鞍岳でこんなに沢山のコマクサが見られるなんて超ラッキーと思った。山頂からの眺望は良いが、ガスが

少し掛かっている、ガスが晴れると剣ヶ峰や摩利支天岳が姿を現し素晴らしい。「ここでランチにしますか？」と聞くと「まだこの先で良いです」と言うので、記念写真を撮ったら下り大黒岳に向かった。

一旦道路に出てゲートを抜けて車道を渡ると登山口があり、10分くらいの登りで山頂に着く。こちらも登山道の両側にコマクサが群生し、コマクサやミヤマダイコンソウ、ミヤマキンバイ等の花を愛でながら楽しく登れる。山頂は広く大きな休憩舎や展望案内盤があり、展望は抜群の山頂である。風が強いので休憩舎の裏側に回り、傾いた丸太のベンチや岩に腰かけランチタイムとする。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、パンやソーセージをいただく。畳平のバスターミナルや魔王岳、恵比寿岳の展望を楽しみながら美味しくいただいた。時間を見ると計画よりもかなり早いので、タクシーにTELLし迎えを1時間早めるよう連絡する。タクシーの運転手さんから「畳平の観光センター前に居るので、いつでもいいですよ」との返事があった。ランチが済んだら展望案内盤まで行き、



乗鞍岳23峰の山座同定を行う。大黒岳から北側の乗鞍スカイラインへ下山する予定だったが、ガスが掛かり始めたので往路を戻り畳平に向かう。来た道をゲートまで下り、ゲートから右に鶴ヶ池の南側の道を歩いて畳平に向かう。鶴ヶ池の周りは高山植物の宝庫で、ハクサンフウロやヨツバシオガマ、ミヤマダイコンソウ、タテヤマリンドウ等々の花が咲き乱れ、お花畑を見ながら楽しく下山できた。朝寄ったトイレで用を足し、観光センター前に止めてあるタクシーを覗くが運転手が居ない。TELをするが出ないのでベンチに腰かけて待つと、バスターミナルの方から歩いて来た。荷物をトランクに積んだら出発し、40分足らずで乗鞍高原観光センターに着いた。荷物を積み替えたら出発し、岩舟支所に向かう。途中、果物を置いているセブンイレブンに寄り、お土産のスイカやプラム等をゲットする。松本ICから長野道に入り、上信越道から北関東道を走り無事岩舟支所に帰着した。

乗鞍岳23峰の山座同定を行う。大黒岳から北側の乗鞍スカイラインへ下山する予定だったが、ガスが掛かり始めたので往路を戻り畳平に向かう。来た道をゲートまで下り、ゲートから右に鶴ヶ池の南側の道を歩いて畳平に向かう。鶴ヶ池の周りは高山植物の宝庫で、ハクサンフウロやヨツバシオガマ、ミヤマダイコンソウ、タテヤマリンドウ等々の花が咲き乱れ、お花畑を見ながら楽しく下山できた。朝寄ったトイレで用を足し、観光センター前に止めてあるタクシーを覗くが運転手が居ない。TELをするが出ないのでベンチに腰かけて待つと、バスターミナルの方から歩いて来た。荷物をトランクに積んだら出発し、40分足らずで乗鞍高原観光センターに着いた。荷物を積み替えたら出発し、岩舟支所に向かう。途中、果物を置いているセブンイレブンに寄り、お土産のスイカやプラム等をゲットする。松本ICから長野道に入り、上信越道から北関東道を走り無事岩舟支所に帰着した。

